

区分・種別	県指定史跡		
名称	ひらじょうかいづか 平城貝塚		
所在地	南宇和郡愛南町御莊平城		
所有者	愛南町ほか	管理団体	愛南町
指定年月日	昭和26年11月27日		
解説	<p>平城貝塚は、御莊湾<small>みしやうわん</small>に流れ込む僧都川<small>そうづがわ</small>の河岸段丘上にある。標高は約8mで、指定史跡を含む遺物の包蔵範囲は、史跡を中心とする東西約60m、南北90mとされ、貝層の厚さは、調査結果からすると、最も深いところで90cmである。</p> <p>明治24（1891）年に発見されてから、周辺部も含めて調査は数次に及び、手足を伸ばした「仰臥伸展葬<small>ぎやうがしんてんそう</small>」という埋葬形式で女性人骨1体が完全な状態で発見されたほか、多数の人骨、シカ・イノシシ等の獣類の骨やマグロ・サメ等の魚類の骨、ハマグリ・カキ等の貝殻が出土している。</p> <p>また、縄文時代後期の磨消縄文<small>すりけしじょうもん</small>という手法で製作された土器が多数出土しており、これらは「平城式土器<small>ひらじょうしき</small>」と呼ばれ、縄文後期の標識土器として著名である。出土した土器は、福岡県鐘ヶ崎<small>かねがさき</small>、岡山県津雲貝塚<small>つくも</small>のものに類似することから、九州や中国の文化圏との交流がうかがえる。</p>		

